

SORA

web magazine 2019.oct. vol.124

ジュゴンのすむ海
Philippines

Busuanga

Photo & Text : Kyu Furumi

MAP
CLICK!



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



ずっとずっと会いたかったんだ

ダイビングを始めた時から、いやもっともっとずっと前、子供の頃からジュゴンの存在は知っていた。でも日本に住むひとりの子供にとっては、ジュゴンという生き物はおとぎ話の中の生き物と、同じような存在だったような気がする。これまでジュゴンと出会えるかもしれないというダイビングスポットにも潜ってきたが、なかなかそう簡単に出会えるものではないということは、毎回思い知らされてきた。近年このブスアング周辺でジュゴンが見られるという話が舞い込んできて、これは絶対に行かねばと心に決めていた。



Philippines Busuanga

ジュゴンのアバン

このブスアング周辺は昔からジュゴンが生息する海として知られていたらしい。地元出身の人々にとっては、特別に珍しい生き物でもないのだから。現在では30頭ほどのジュゴンが確認されて、手厚い保護を受けながら人々と共生している。もともと警戒心の非常に強いジュゴンは、自ら人間に近寄ってくるということはほとんどないのだが、例外となる一頭のジュゴンがいる。「アバン」と名付けられた個体は、人間を恐れることなく、というよりも全く意識することなく海藻を食べ続け、いとも簡単に接近することができる。

観察するにもまずは水面に呼吸をしに浮上してくるジュゴンを探す。そしてガイドのOKが出たら、音を立てずに静かに入水し接近を試みる。ドキドキする瞬間だ。視界の先の砂地の上にぼんやりと大きな影が見えてきた。巻き上がる砂の中に見えたのは憧れ続けてきたアイツだ。

一心不乱に草を食むアバン。本当に僕のことを気にも留めず食べ続ける。コガネシマアジを従え、ドドッと音を立てながらの行進だ。これが数分間続き、呼吸をするためにフワッと浮き上がり、すーっと太陽の方へ向かっていく。横から見ている時はまったくもって思わなかったが、下から見上げたアバンのシルエットは、人魚そのものだった。





きらめくサンゴ光の中で潜る





きらめくサンゴ光の中で潜る

ジュゴンダイブに出る時は基本的にワンデイトリップとなる。リゾートを出航してから2時間ほどでアバンの住む Aban島を目指しダイビング。休憩やランチを挟みながら、その後2ダイブを周辺の Dimipac島、Turtle島などで潜る。砂地とサンゴのコンビネーションに隣々と降り注ぐ太陽が気持ち良い。砂地には無数のアニマルトラックが残され、この周辺でもジュゴンは頻りに現れるのを物語っている。つい先ほどまであれだけジュゴンとの邂逅を楽しんでいたのに、思わず周囲をキョロキョロ見渡してしまう自分がちょっと面白い。ジュゴンの気配を感じながら、ウミガメやサンゴを楽しむなんて贅沢な話ですね。





ハウスリーフが熱い

ダイブセンターのスタッフに勧められて、エル・リオ・イ・マールのハウスリーフにセルフダイビングで潜ってきた。ダイブセンター目の前に係留されたバンカーボートから、器材と一緒に小型のボートに乗り換え、バーのある栈橋の沖でドボンとエントリー。その栈橋の袂には個体ごとは小柄ながらも、ギンガメアジが渦を巻きながら右往左往していた。なだらかなスロープにサンゴが豊富で、カエルウオの仲間やカニハゼ、マンジュウイシモチなどマクロ生物が充実。拳サイズのジョーフィッシュなども数個体見かけた。ジュゴンに癒され、ギンガメに興奮して、じっくりマクロまで楽しめる。プスアンガが恐るべし。





ジュゴンはみんなにやさしい

「なんかいい感じなんだよなあ」今回の取材でお世話になったジュゴンダイブセンターの面々と接していて強く感じたことだが、みんな表情も柔和で話し方も穏やか。しっかりと保護しているジュゴンを、多くのゲストに案内するには、それなりに厳しくテキパキと管理されながら潜るものなのかな?と、最初は少し心配していたのだが、まったくの杞憂に終わってしまった。マネージャーのNausicaaさんをはじめ、ガイドのBryanも、ポートキャプテンも、みんないつもニコニコしているのが印象的だった。「ジュゴンは本当にラブリーなんだよね～」と話す彼らを見ると、一緒に潜っている僕らまでなんだかほっこりした気分になってしまう。ジュゴンと接していると、心から朗かな気持ちになれるんだなあ。



エル・リオ・イ・マールリゾート&ジュゴンダイビングセンター

今回お世話になったのは穏やかな湾と、美しい緑に囲まれたエル・リオ・イ・マールリゾート。環境に配慮しプラスチック製品の使用は最小限に抑えられたエコリゾート。自然と同調したナチュラルでありながら、ラグジュアリーな気分も味わうことができるので、ガッツリダイバーにももちろんオススメだが、ハネムーンや小さな子供連れのファミリーもたくさん滞在してた。夕方サンセットの時間に、桟橋先端のバーまでトコトコ歩き、ビールを飲みながらゆっくりと過ごすのが至福の時間だった。ジュゴンダイブセンターは日本人スタッフが常駐していないものの、スタッフは皆経験豊富で、細やかで丁寧なケアを提供してくれる。安心してダイビングを楽しむことができるだろう。

※ジュゴンダイビングは人数が揃わない場合は催行されない場合があるので、前日までにダイビングセンターで確認が必要だ。

